



2018年4月10日発行  
 公益財団法人仙台YMCA  
 〒980-0822  
 仙台市青葉区立町9-7  
 Tel 022-222-7533  
 Fax 022-222-2952  
 www.sendai-ymca.org  
 発行人 / 村井伸夫  
 編集人 / 永沼真理

# 仙台青年



## 『子どもたちの生きる力を育てる』

仙台YMCA会長  
 公益財団法人仙台YMCA  
 理事長 菅野 健



私の名刺入れに入っている「仙台YMCAメンバーズカード」の裏面には、「仙台YMCAの使命」として六つの使命が書かれています。共に生きる社会をめざす 喜びのある生き方をすすめる 世界平和の実現に努める 地球環境を大切にす ボランティアの働きを地域社会に拡げる こどもたちの生きる力を育てる 最初の四つは私たちが生涯目標とすべき指針のようです。五番目と六番目は私たちがすぐにも実行できることのように思われます。特に、「子どもたちの生きる力を育てる」ことは、家庭でも学区・町内の各地域でも、だれにでもできることではないでしょうか。

「いじめ」や「不登校」といった言葉が聞かれることが多くなっています。私が学んだところによれば、小学校上学年あたりから「いじめ」や「不登校」の原因となることが生まれ、中学校に入るとともに一気に表面化することです。その予防には小学校上学年の時の生き方が大切になるとのことです。「友だちをつくる」こと、「なんでも相談できる人と出会う」こと、「相手を思いやる」ことなど。仙台YMCAが展開しているさまざまなプログラムが「子どもたちの生きる力を育てる」ことに大きな貢献ができるよう、会員の皆さま、職員の皆さまと共に進みたいと願います。

## 『職員の処遇改善』

社会福祉法人仙台YMCA福祉会  
 理事長 工藤 正 剛



新しい年度を迎え、たくさんの笑顔と不安そうな顔が入り混じった多くの子どもたち...3つの保育園では、新入園児を迎えて職員一同新しい気持ちでスタートを切りました。

平成29年3月31日に改正された「保育所保育指針」(厚生労働省制定)が今年4月1日から適用されます。これは、保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ、特に3歳以上児の保育について、幼稚園認定こども園との整合性を確保することや、「子育て支援」の新設などが改定の主な趣旨です。保育士不足は慢性的に続いております。しかし潜在保育士は多いと聞きます。YMCAの保育園も保育士不足のために園児の定員を満たすことに苦労をしております。そこで、新年度からは保育士の処遇改善の一環として4週8休制を導入することといたしました。これは、同じYMCAで働く他の法人職員と異なることとなりますが、各法人職員のご理解のもとに実施することといたしました。西中田保育園は設立後20年を迎え、施設の老朽化が目立ってきました。南大野田保育園、加茂保育園も同様の状況にあり、今後の課題です。昨年は三園とも照明のLED化工事を行いました。新年度も、園児の安全を確保しつつ、神様から託された大切な子どもたちを「YMCAの願い」のもとに職員一同心を込めて育ててまいります。

## 仙台YMCAの使命

- 私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。
- 共に生きる社会をめざします。
- 私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。
- 喜びのある生き方をすすめます。
- 私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。
- 世界平和の実現に努めます。
- 私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。
- 地球環境を大切にします。
- 私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。
- ボランティアの働きを地域社会に拡げます。
- 私たちは、人と人のかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。
- 子どもたちの生きる力を育てます。
- 私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

## 仙台YMCAの願い

新年度にあたり 仙台YMCA会長、仙台YMCA各法人  
 理事長、仙台YMCA総主事より メッセージ

## 『YMCAの新しいブランドと ともに進みます』

学校法人仙台YMCA学園  
 理事長 清水 弘 一



桜の開花も例年より早く訪れ、東日本大震災発生から7年が経ちました。3月には国際ホテル製菓専門学校の卒業生と幼稚園の卒園児が、大勢の保護者や先生に見守られて巣立って行きました。専門学校卒業生の中には海外からの留学生も3人含まれ、学友、先生方、スタッフとの別れには感慨深いものがあったようです。大震災直後に生まれた35名の卒園児は入園時とは比較にならないほどたくましく成長され、保護者の皆さまや先生方には嬉しさと感動の涙がありました。そして今年度も桜前線の到来とともに、新入学生、新入園児、アフタースクールの子どもたちや健康事業部のプログラムに参加する皆さんをお迎えしました。

YMCAは昨年10月より全国一斉に新ブランディングがスタートしました。今までのロゴマークが変わり新しいスローガンが発表されました。「みつかる。つながる。よくなっていく。」という3つの価値を実現すべく進んでまいります。YMCAには様々な年齢層や価値観を持った人たちが集まり、いろんな感動に出会う場所です。学校法人は他の3法人とともに一つとなって、更なる社会に認められる存在として努力してまいります。

## 『子どもは子どもらしく、 大人は大人らしくを目指して』

仙台YMCA総主事  
 特定非営利活動法人仙台ファミリーセンター  
 理事長 村井 伸 夫



2008年度に法人認可を受けた特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンターの活動は11年目を迎えました。立町会館を借館して活動をおこなう「アフタースクール」と発達障がい児支援プログラムの「コミュニティスクール」と発達支援事業放課後等デイサービス事業「みらい」、立町会館に隣接する建物の1階を借館しておこなう放課後等デイサービス事業「きぼう」、仙台市内小学校に隣接する「旭ヶ丘児童館」、「富沢児童館」、「西山児童館」の3児童館事業、そして2017年に富谷市から受託した「富ヶ丘放課後クラブ」、「あけの平放課後クラブ」、「日吉台放課後クラブ」の3施設は2018年度から3年間の契約延長を受けることが出来ました。どのプログラムでも、学校が終わってランドセルを背負った児童が駆け足で来館します。また、地域の子育て家庭支援がの親子プログラムでは、いつもゆっくりした時間流れています。

時には一人の児童について保護者とYMCAスタッフが真剣に話し合いをすすめる姿を目にします。

新しく始まる1年も、子どもは子どもらしく、保護者は保護者らしく、ボランティアはボランティアらしく、スタッフはスタッフらしくあって欲しいと思います。今までと変わることなく、一人ひとりの違いを認め受け入れながら、他者と協力して、誰かのために奉仕する場所であり続けたいと願ってやみません。みなさまからのご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 幼稚園 世界で一つの自分だけの絵本作り

3月10日、第76回卒園式が行われ、35名が新しい道へと進むことになりました。今年卒園した年長児は、普段子どもたちと絵本を作る活動をしていらっしゃる保護者の方のサポートにより、年中児の時からたくさんの紙芝居や絵本を作ってきました。卒園間近には世界で一つの自分だけの絵本作りも行いました。2年間、お話を自分で作るということを学んだ子どもたちは、普段の遊びの中でも紙と色鉛筆で、あっという間に1冊仕上げてしまいます。

サポートしてくださった保護者の方が、「絵本作りをしていると、実際に嫌なことが起きてもこれはお話の途中、絵本のように必ず続きがあると思って様々なことも乗り越えていけるようになる」ということを教えてくださいました。幼稚園を卒園しても是非絵本作りを日常の事として続けて欲しいと願っています。  
(高橋祐子)



## 東日本大震災支援対策室 岩佐いちご農園ワーク報告

2017年度、第10回目、年度最後の岩佐いちご農園ワークを3月18日に実施しました。今回は子ども4名、保護者4名、社会人1名、スタッフ2名、合計11名の参加でした。今回初参加のご家庭が1組(3名)ありました。

作業内容は、予備として準備していた苗(すでに枯れているもの)を緑のポットから外して土と根っこや葉っぱを仕分けする作業です。気持ち良い天候の下、ポットをハウスから運びだし、仕分けをしましたが、土が乾燥しており出る埃の量が多く、みな、マスクをし、目に入らないように注意しながら作業を行いました。午後からは、ハウス内の掃除をし、次のシーズンに向けての準備を行いました。2018年度も定期的な活動を行う予定です。(斎藤 勉)



## 仙台YMCA山岳会 活動紹介

二日前の大雨で雪が締まり、氷点下になった当日は雪面が堅く山スキーには苦しい登りとなった。3月の会山行は、会の重鎮が次世代に残したい山行スタイルを提案した。キンキンに冷える空気がある。何度も見ただけの景色に見とれる。船形山塊はブナが美しい。その上、冬枝が霧氷に覆われて真っ白の別世界にいる。あーまた来られた。いくつかの沢を越えて着いた広い雪面はこの時期だけの鏡が池だ。

今回の主目的の雪洞はCL提案のザックを芯に雪を積み上げるスノーマウント方式と、その雪を調達する竪穴式雪洞ができた。居心地良く出来た雪洞に口ウソクの灯火がゆれる。あと2ヶ月もすれば桜の季節になり、あのブナ林の霧氷は新緑に代わるはずだ。  
(庶務/坂本育子)



## 「キリスト教理解」 第16回 悲劇としてのクリスマス

日本基督教団 石巻栄光教会  
牧師 川上直哉

### 1. 「暦」の意味と、教会暦

この講義では「歳時記」を意識してお話をしてきました。キリスト教の催事記は「アドベント」に始まるクリスマスシーズンから、「ペンテコステ」がある初夏のころまで一巡ります。

そういえば、今年・来年は日本の「歳時記」の根本に大きな変更が加えられる年になるそうです。天皇が代替わりするということで、年の呼び名が変わる。日本には日本の歳時記があり、それはこの1500年くらいの間、天皇を基本において構成されている、ということ、今年、私たちは確認するのだと思います。

キリスト教の歳時記は、イエスを基本において巡ります。日本の歳時記は、天皇を中心にして巡る。そのように、同じ地球の上には幾つもの歳時記があり、幾つもの世界があって、いろいろな人がそれぞれ生きている。そのことを認めなければ、問題が起きます。その違いを無視したり消そうとすると、いつか戦争や虐殺が起る。「歳時記」をよく見てみると、たとえばYMCAの理念の具体的な展開が見えてくる、と思います。

### 2. 悲劇としてのクリスマス物語

一人一人は、それぞれ別の世界を生きているかもしれないということ。そのことを忘れてしまうので、戦争や虐殺が起り続けてきました。それで私たち人類は、「悲劇」というものを語り伝えることにしたようです。世界中の古典のほとんどは「悲劇」の形態をとっています。例えば世界を支配したギリシア・ローマ文明においては、悲劇物語を定期的に観劇することが市民の義務になっていました。そうした人類の伝統が反映しているのでしょう。クリスマス物語も、全体をまともしてみると「悲劇」となっています。

ギリシアが征服した世界を、西の端からローマが飲み込み始めたのが、今から約2200年前です。その動きに乗じて、イエスの生まれた辺りの地域は、ギリシアからの独立戦争を始め、見事勝利します。その独立国はユダヤと名乗り、ローマにすり寄り、そして「半植民地」のようになって独立と繁栄を維持することになります。ギリシアが支配していた中央アジアにまで版図を広げたかったローマは、このユダヤに巨大な基地を作り、東征の根拠地とする。まるで今の日本と米国のような関係が、ユダヤとローマの間に成立したのでした。ローマの勢いを食い止めたのは、ギリシアが支配していた中央アジアを統合したパルティア王国です。

そのパルティアから、ある日、ユダヤの王のところへ使者がやってきて、「あなたの次の王様が生まれました。その方と、よしみを結びたい」と語る。驚いたのはユダヤの王です。反対する人を皆殺しにし、どんな屈辱でも耐え忍んでローマにすり寄り、今のユダヤを作った。その苦勞も、自分が退位したら消えてなくなるのか。それは耐え難いことです。しかし、それは避けがたいことと思われる。その運命にあらがうべく、王は行動を起こします。「次の王」の誕生する場所を探索し、そこに生まれた2歳以下の嬰兒を皆殺しにすることを決意するのです。この時、パルティアの高官が探していた「次の王」という子どもこそ、イエスだった。「イエスは、生まれぬ方が良かった。」「呪われた誕生」の物語。それがクリスマス物語でした。そのイエスは、天使のお告げを受けた父の機転があり、無事にその殺戮の現場を離脱します。その背後には泣き叫ぶ母親たちの声が響いていたと、物語は語るのです。

この悲劇には、謎が隠されています。その謎を解くカギは、イエスとその両親が逃げた先に隠されています。二人は「エジプト」へ逃げたと物語は語るのです。これは「ありえない」設定です。

古代人だって、それはおかしいとわかる。そこにヒントがあります。これは「出エジプト物語」を想起せよ、と示しているのです。「出エジプト」は、嬰兒が虐殺される中で一人助かるモーセ、という物語で幕を開けます。イエスの生涯は、その物語をなぞり、その限界に挑戦しますよ、と、クリスマス物語は語っているのです。

昨年は、旧約聖書「創世記」を意識しながらこの講義を進めました。今年は「出エジプト記」を意識しながら、この講義を進めてみたいと思います。

### 3・11 東日本大震災被災者追悼礼拝報告

2011年3月11日(金)午後2時46分、太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0という規模で発生した津波により、多くの犠牲者を出した東日本大震災から7年が経過しました。

本日、予定通り東日本大震災被災者追悼礼拝を行うことができました。参加者はスタッフとそのご家族、役員のみならずを含めて28名となりました。また、礼拝での献金20,800円は、東日本大震災復興支援に使わせていただきます。被災され、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともにこれからの復興を願う時を持ちました。感謝と共にご報告させていただきます。

(本部/小幡忠弘)

# 第32回タイ農村 ワークキャンプ報告

日程 2018年2月25日～

3月8日(12日間)

訪問地 タイ王国パヤオ県YMCAパ  
ヤオセンター、メータチャ村

参加者 10名(大学生9名、団長)

## <キャンプの目的>

- ①タイ農村部のコミュニティに必要な施設を作る
- ②訪問国の人々との交流を通し、文化・歴史・生活等々について理解を深める
- ③「共に生きる」ことの意味を学び、人々との出会い、交わりを深める

## <メータチャ村の人々と協力した道路整備>



今回ホームステイをさせていただいたメータチャ村でのワーク内容は道路整備でした。村から10分ほど離れた病院のある隣の村へ行く道中は、舗装されていない山道が続きます。

## YMCAと私

旭ヶ丘児童館  
保護者 木下 美紀  
(児童 将克、叶萌)



初めてYMCAのスキーキャンプに参加したのは小学3年生、親戚に誘われてだった。そこから完全にハマってしまった。当時、石巻に住んでいた私は朝の5時に出発しての参加。兄弟3人で参加していたキャンプ。当時は「高須賀3兄弟」とリーダーに覚えられるほど通い続ける「悪ガキ3兄弟」だったらいい。

時がたち、気づけば私は一人で参加するようになった。東八幡平、田沢湖、大鰐、札幌と春も冬も、受験生でも、熱があってもスキーキャンプには参加し続けた。大学1年生までメンバーとして。そんな私も母になり、今度は息子が児童館でお世話になっている。YMCAに絶対的な信頼を置いている私は、素直に嬉しかった。悪ガキだった私の息子だけど、安心して任せてもらえる。

昔のリーダーたちと会う機会があり、「息子と娘うるさいでしょ?」と言うと「慣れてるさ(笑)お前を扱ってきた、みんなプロだから...お前よりマンだろ」って。9歳からの付き合いで今年で丸30年...。変わらず”仲間”として付き合い合ってくれ、その中の一員になれている事が嬉しくて本当に幸せ。

4月から、息子がプールにお世話になる予定。あとどれくらいお世話になるのだろうか?不思議と切れない縁を大事にしていきたいと心から思っている。来年には、娘も児童館にお世話になる。「木下兄妹」として、良くも悪くも名前が知れわたるのでは...。そんな心配をしつつも、きっとまた「高須賀美紀の子どもだから仕方ない」と笑って受け入れてくれるだろうな...と、やっぱり安心して任せてしまう私だろう。

雨が降った場合、その山道を走ることが困難となります。緊急時でも隣の村へ車を走らせられるよう、舗装されていない急斜面である約100mを村の人々と共に道路整備をしました。日中約30度の気温の中、砂や小石・セメントや水を、汗を流しながらの作業でした。初めは少し距離がありましたが、教えてもらったアカ語を話しながら、笑顔で元気に作業をする学生のひたむきな姿を見て、村の人々の私たちに對する表情が変わっていきました。目標であった100mの道路を約114mまで整備できたのも、道路整備作業を通して、村の人々との信頼関係を構築できたからだと思っています。

## <言葉の壁を超える>

普段触れる機会の少ないタイ語。子どもたちとの活動では、タイ語と言う言葉の壁をととても感じました。しかし、言葉の壁を簡単に超えるツールを見つけました。それはスポーツ。YMCAパヤオセンターでも、メータチャ村でも、スポーツが大人気。ボール一つでサッカーやバスケット、バレーといったスポーツに大勢の子どもたちが集まってきます。言葉がなくても、スポーツでお互いの気持ちが通じていました。スポーツには勝負がつきものですが、冬季オリンピックが開催されている中、スポーツが言葉の壁を超えて平和の祭典としてオリンピックが生まれた意味を噛みしめました。



## <主体性>

「YMCAボランティアの定義」の中に、「主体的に、責任を持って参加(主体性、責任性)」という項目があります。今回、タイでプログラムをいくつか行いました。事前に学生たちと準備を進めていたが、キャンプがスタートすると日を追うごとに学生たちが主体的に行動するようになりました。団長に頼るのではなく、それぞれが自ら主体的に、そして責任を持ってお互いに関わり合い、主体性を持ってワークキャンプを行っていました。彼らの主体性はとても素晴らしいものでした。



## <最後に...>

子どもたちやパヤオセンターのスタッフ、村の人々と学生たちの中で生まれてきた熱い絆を感じました。主体的に思いを持って活動したからこそだと思っています。感受性の強い、そして柔軟性のある時期に、私も含めて素晴らしい経験と思い出を作ることが出来ました。このタイ農村ワークキャンプは、国際地域協力募金からの支援を受けております。多くの方々からのご支援に改めて感謝申し上げます。(第32回団長 黒田 敦)

## ボランティア・ボランティア

こどもセンター  
YMCAみらい・Y-CAT  
ボランティアリーダー  
菅原 明 梨



私は、子どもたちに関わることのできるボランティアを大学生のうちで経験したいという理由から仙台YMCAのボランティアリーダーとして昨年の6月から活動しています。現在は、水曜日にYMCAみらいの活動・土曜日はY-CATの活動に参加しています。ボランティアリーダーを始めて10カ月が過ぎようとしています。まだまだ戸惑うこと、間違えることも多く、先輩のボランティアリーダーさんやYMCAスタッフの皆さん、メンバーの皆さんに支えていただきながら活動しています。

これまでの活動では、クリスマスプレゼントや節分クラフトなどの工作をする、ロシア料理や韓国料理を作って食べる、エスプ塩釜や大亀山森林公園に行く、お買い物に出かける、プールに行き遊ぶといった活動を行ってきました。このような活動を通して、子どもたち一人ひとりの個性や性格・苦手なこと・得意なことを知ることが出来るため、メンバーと会って活動を共にするたびに新たな発見があり、とても楽しく、やりがいを感じています。メンバーの皆さんは、YMCAの様々な活動の中で、出来なかったことが出来るようになるといった成長や変化をしています。成長・変化し続けるメンバーの皆さんと関わることで自然と笑顔になり、元気をもらっています。

メンバーの皆さんの成長や変化を感じながら、私自身もリーダーとして成長しなければならぬと思っています。リーダーとしてメンバーの皆さんと関わっていく中で、自分の力不足を強く感じています。そのため、質の高い支援技術やコミュニケーション能力を身に付けることができるよう努力していきます。頼りないリーダーではありますが、これからも頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 第46回国際・地域協力募金特別 プログラム実行委員会より ～年度末報告～

昨秋より展開してきました第46回仙台YMCA国際・地域協力募金運動は年度末で終了いたしました。

3月末現在、1,929,420円の募金を多くの皆様からお預かりすることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。お預かりいたしました募金の使途先及び支援金額は年度末の集計を待って決定し、それぞれの必要とされる人々や地域のために活用されることとなります。昨年7月より推進してまいりました実行委員会による特別プログラム等を終了すると共に実行委員会も3月を持って解散し働きを終了いたしました。ご支援、ご協力ありがとうございました。なお、第46回募金の最終報告は仙台YMCAニュースに掲載いたします。第47回募金へのご支援、ご協力もよろしくお祈りいたします。  
(担当 佐藤麻衣)

### 〔支援先使途計画予定〕

1. タイ農村ワークキャンププロジェクト支援
2. 日本YMCA国際協力募金支援
3. 仙台YMCA子ども支援基金支援
4. 議政府YMCA交流基金
5. 東日本大震災被災地支援
6. パヤオセンター支援

## 仙台ワイズメンズクラブの活動紹介 国際・地域協力街頭募金活動に参加して 仙台ワイズメンズクラブ 佐々木絹子

昨年11月23日、勤労感謝の日に孫の虎太郎と共に、街頭募金活動に参加しました。募金のお願いで立っていると、募金に協力をされる方、ただ足早に過ぎ去る方など、いろいろな方々と接することができます。

保育園の園児から大きな声で募金のお願いをされると、ニコッと笑って募金箱へ入れてくれる方、遠くの方からポケットに手を入れ財布を取り出し中身を全部献金して行く方、一人の若者は「お金がないんだ、少しだけでゴメンネ。」と言って、入れてくれました。また、一度募金してくださったご婦人が、戻ってきて別の募金箱にも小銭を入れてくださり「がんばってね。」と声掛けをしてくださりました。募金箱の前を通り過ぎるだけの方々も「募金をしたくない」ではなく、照れくささがあつたり、中には様々な情報から、本当に正しく使われているのだろうかなどの疑問を持たれ、パスしてしまうようにも感じました。そんなこんなで、通行中に大きな声で募金のお願いをされる側にも、ちょっと申し訳ないかなあという思いにもなりました。

募金を募る役になった小学4年生の孫からは、「自分の箱に入れてもらった募金は、自分のものになるの?」と、質問を受け、募金の意味を説明し分かってもらいました。そしてすべての人々に感謝し帰路につきました。



## 仙台YMCAバザー開催のお知らせ 日程 6月10日(日)

毎年恒例となりました「仙台YMCAバザー」が6月10日(日)に開催されますので、ぜひ皆様、お誘い合わせの上、お越しください。

バザーの物品の寄贈もお願いしております。皆様のご家庭で眠っている物品がございましたらご寄贈くださいますようお願いいたします。尚、ご寄贈いただく品物は未使用のものに限ります。古本や中古商品はご遠慮願います。

受付期間 4月9日(月)～6月9日(土)  
受付時間 午前9時～午後6時まで

### 受付場所

- ・仙台YMCA・幼稚園(222-7533)
- ・YMCA西中田保育園(306-0730)
- ・YMCA南大野田保育園(748-0130)
- ・YMCA加茂保育園(777-6776)
- ・YMCA子どもセンター(304-5763)
- ・仙台市旭ヶ丘児童館(718-6628)
- ・仙台市富沢児童館(743-8085)
- ・仙台市西山児童館(251-0556)
- ・富谷市富ヶ丘小学校児童クラブ(342-0852)
- ・富谷市あけの平小学校児童クラブ(341-4280)
- ・富谷市日吉台小学校児童クラブ(341-2232)

## 維持会費 みなさまのお支えに心より感謝いたします。(2018年2月27日～3月29日)

A会員/10,000円 B会員/20,000円 C会員/30,000円

### 継続A会員

深野稔生 太田嘉嗣 坂本育子 木内利則 西田猛和 阿部忠典 木村俊介 今出隆康  
平野邦夫 坂本 満 鏡 慶一(再)

仙台YMCAではYMCAを支えていただける維持会員を随時募集しております。

《お問合せ》本部事務局 TEL 022-222-7634 FAX 022-222-2952

# ウエルネスクラブ 新規募集 2018

## ウエルネスクラブ

フィットネス会員		
月額	一括払い 前期(4月～9月) 後期(10月～3月)	
6,600円	前期 33,000円	後期 33,000円
スイミングプール、ジムの利用、メンバーズプログラムに参加できます。		
フィットネスゴールド会員		
月額	一括払い 前期(4月～9月) 後期(10月～3月)	
5,340円	前期 26,700円	後期 26,700円
フィットネス会員で65歳以上の方が対象。		
フィットネスフォー会員		
月額	一括払い 前期(4月～9月) 後期(10月～3月)	
5,100円	前期 30,000円	後期 30,000円
月4回、スイミングプール、ジム、メンバーズプログラムに参加できます。一括の場合は前期2回、後期2回ご利用いただけます。		
レッスンスイミング会員		
月額	年2回分割払い	
5,300円	4～9月 25,500円	10～3月 30,600円
8月を除いて、年37回のレッスン。月・火・水・木・土のいずれかの曜日です。時間は、11:00～11:50、初級から上級のレベル別グループレッスンとなります。フィットネス会員割引もあります。お問い合わせください。		

## 施設利用時間

曜日	施設利用時間	更衣室利用時間	
		入室	退室
月～金	昼 12:00～14:00	11:50	14:30
金	ウォーターエアロビクス参加	11:20	14:30
土	午前 9:30～11:00	9:20	11:30
土	昼 12:00～13:20	11:50	13:40
月～土	夜 18:15～20:15	18:10	20:30

## メンバーズプログラムのご案内

プログラム名	曜日・時間	定員
健脳健骨運動	月 11:00～11:50	15名
	金 10:30～11:20	
いきいき運動(要予約)	木 11:00～11:50	10名
ヨガ(要予約)	火 10:30～11:30	8名
ストレッチヨガ(要予約)	金 11:30～12:30	8名
ウォーターウォーキング	木 18:30～19:00	30名
ウォーターエアロビクス	水 12:15～13:00	30名
※金曜日は時間変更となる場合があります。	木 18:30～19:00	
	金 11:00～12:00	
バレトン(要予約)	火 18:30～19:15	6名
ボールエクササイズ(要予約)	木 19:00～19:45	8名

ウエルネスクラブ新規入会キャンペーン!!  
フィットネス1回無料体験実施中です。(要予約)  
ジュニアクラブプログラムも随時体験を募集しています。  
詳しくはお問い合わせください。